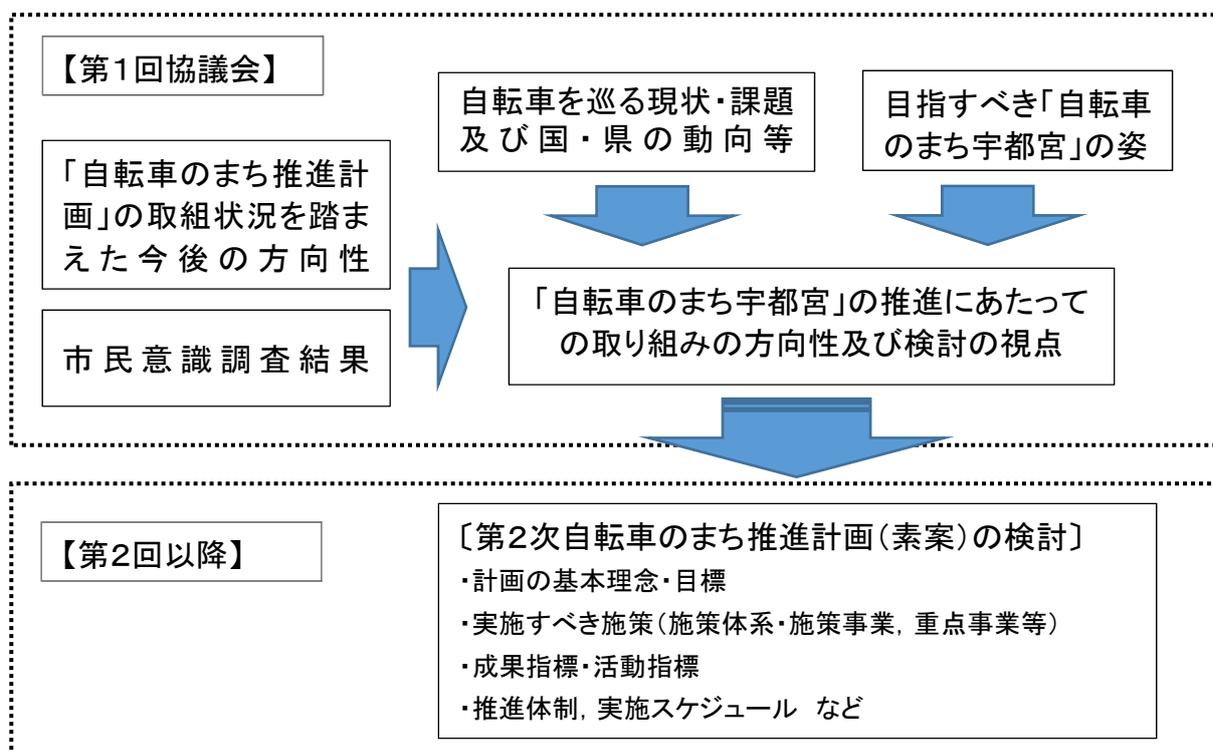


「(仮称) 第2次宇都宮市自転車のまち推進計画」策定に向けた検討の方向性について

1. 策定の進め方 …… 別紙1【概要版】参照

計画の策定にあたっては、現在の「自転車のまち推進計画」の取組状況を基本としながら、昨年度実施した市民意識調査結果、自転車を取り巻く社会情勢の変化や「自転車活用推進法」をはじめとする国・県の動向等を踏まえるとともに、「第6次宇都宮市総合計画」や「第2次宇都宮都市交通戦略」等が示す本市の将来像に基づき、目指すべき「自転車のまち宇都宮」の姿を明らかにし、その実現に向けた取り組みの方向性、検討の視点を取りまとめた上で、具体的な計画の基本理念・施策体系等の検討を進めることとする。



2 「自転車のまち推進計画」の取組状況を踏まえた今後の方向性 …… 資料3参照

(1) 施策の柱ごとの評価

① 安全

【自転車走行空間の整備推進と自転車ネットワークの見直しが必要】

・自転車走行空間の整備を進めるとともに、市民の移動実態、公共交通との連携強化等を踏まえた自転車ネットワークの見直しや効率的・効果的な整備手法の検討を進めていく必要がある。

【交通安全教室の継続的開催及び自転車保険加入促進・ヘルメット着用促進が必要】

・交通安全教室を継続的に開催するとともに、クルマの運転者に対する啓発活動の強化や自転車保険の加入促進、ヘルメットの着用促進に取り組んでいく必要がある。

② 快適

【レンタサイクルの事業運営の見直しと利便性向上が必要】

・レンタサイクルの効率的・効果的な事業運営やICTの導入やシェアサイクル化などの利便性の向上について検討していく必要がある。

【駐輪場の再整備・管理運営・利便性向上の検討が必要】

・駐輪場について、老朽化に伴う再整備の考え方や利便性・効率性向上のためのICT活用・管理運営のあり方などについて検討する必要がある。

【駐輪スポット・自転車の駅の設置が必要】

・オリオン通りなどの駐輪環境の向上を図るため、地元商店街と協働で駐輪スポット設置について検討していく必要がある。

- ・自転車の駅について、サイクリングルート沿線への設置拡大とともに、周知・PRの強化を図っていく必要がある。

③ 楽しく

【ジャパンカップコースの活用及びジャパンカップを活かしたPRが必要】

- ・ジャパンカップコースの年間を通じた活用のための走行環境向上や安全性確保、ジャパンカップのブランド力を活かした広域的なPR活動を実施する必要がある。

【宇都宮ブリッツェンと連携した自転車教室等の開催が必要】

- ・宇都宮ブリッツェンと連携した自転車教室・サイクルイベントの開催、幅広い市民に参加してもらえるような教室内容の検討や参加しやすい環境づくりに取り組む必要がある。

【宮サイクルステーションの機能拡充の検討が必要】

- ・宮サイクルステーションのレンタサイクルの更新や情報発信機能の充実、サイクリングツアーの開催など「自転車のまち宇都宮」の拠点施設としての機能拡充や施設規模等について検討していく必要がある。

④ 健康とエコ

【自転車通勤の促進・健康増進のPRが必要】

- ・自転車通勤の促進について、引き続き企業・従業員等を対象とした出前講座を開催するとともに、雇用者側のメリットについてもアピールするなど、内容の充実を図る必要がある。
- ・自転車通勤の促進と合わせた健康ポイント事業への加入促進を図るとともに、全ての市民を対象に健康増進のための自転車利用のPRを強化する必要がある。

⑤ つながる

【自転車と公共交通との連携強化が必要】

- ・利便性の高い公共交通ネットワークの構築に合わせて、鉄道やLRT、バスと連携した駐輪場整備を進めるとともに乗継の利便性向上を図る必要がある。

【広域的サイクリングルートの設定及び利便性の高いサイクリングロードの整備推進が必要】

- ・広域的なサイクリングルートについて、国のモデルルートへの設定を目指し、県や周辺市町と連携を図りながら走行環境の整備や受け入れ環境の整備、ルート沿線の魅力づくり等について検討を進めていく必要がある。
- ・鬼怒川や田川等のサイクリングロードの整備を進めるとともに、自転車ネットワークとの接続や広域サイクリングルートとの接続など、利便性の高い自転車ネットワークの構築について検討していく必要がある。

(2) 総括

【成果指標の達成状況】

指標	基準値	目標値	実績（R元）
自転車に関連する交通事故件数	H22：629件 H27：429件	320件以下	H28：354件、H29：342件 H30：409件、R元：428件
自転車交通分担率	H22：17%	25%	R元：13.3%
市民満足度	H22：29.6% H27：26.7%	50%	R元：27.7%

- ・自転車関連の交通事故件数は、H29年までは減少していたが、H30年以降は増加傾向にある。交通事故削減に向けた安全な自転車走行空間整備とルール・マナーの周知・啓発、安全教育の充実が必要である。
- ・昨年度実施した市民意識調査の結果では、自転車の交通分担率は低下している。安全・快適な自転車走行空間整備や公共交通との連携強化、市民への啓発活動などの取り組みを充実・強化し、自転車の利用促進を図ることが必要である。
- ・昨年度実施した市民意識調査の結果では、市民満足度は27.7%と低い水準で推移している。市民自転車に関する満足度が向上するよう、施策事業の推進と合わせた市民に対するPRの強化が必要である。

2 市民意識調査結果 . . . 別紙3参照

(1) 安全

- ⇒ ・自転車走行空間の更なる整備が必要
- ・自転車ルールの教育・広報・啓発の充実が必要
- ・交通ルールの学習機会の拡充が必要

◆自転車走行空間の整備

⇒未整備道路における車道走行率は14%であるが、矢羽根型路面表示で33%、自転車専用通行帯で60%となり、走行空間の充実とともに車道走行率が高まる傾向がある。

⇒「整備が十分でない」の回答(47.2%)は「十分である」の回答の約2.4倍

◆自転車ルールの教育・広報・啓発

⇒自転車のルール教育やマナー啓発については、9割以上の学校で実施

⇒「啓発が十分でない」の回答(46.5%)は「十分である」の回答の約3.1倍

◆交通ルールの学習機会

⇒これまでに自転車の交通ルールを学ぶ機会があった人は約半数。高・大学生や社会人で学ぶ機会を得られた人は1割以下に留まる。

⇒高齢者ほど学習機会が得られにくい。

(2) 快適

- ⇒ ・レンタサイクルのサービス拡充や機能更新が必要
- ・使い勝手の良い駐輪場の更なる確保が必要

◆レンタサイクル

⇒利用しやすさ、利用料金、貸出・返却場所の分かりやすさ、手続きの簡単さ、どこでも返却できることに対する満足度は高く、ほとんどの人が次回以降も利用したいと回答している。

⇒レンタサイクル利用者の60%が出発地と目的地以外の場所に立ち寄り、回遊性向上に寄与

⇒貸出場所の増設や利用時間の延長などの要望がある。車両の老朽化への対応が必要。

◆駐輪場整備

⇒「整備が十分でない」の回答(33.7%)は「十分である」の回答の約1.4倍

(3) 楽しく、つながる

- ⇒ ・自転車関連の各種取組の認知度向上が必要

◆自転車に関連した各種取組の認知度

⇒ジャパンカップの認知度は市民全体の79%と非常に高く、自転車イベントの充実度に対する満足度も高い。

⇒ジャパンカップサイクルロードレースや自転車走行空間、サイクリングロード以外の取組みは半数以上の人に知られていない。

(4) 健康とエコ

- ⇒ ・健康への意識の高まりを捉えた自転車活用の促進が必要

◆健康への意識の高まり

⇒自転車のイメージとして、「健康増進につながる」は90%以上の人が思っており、ポジティブなイメージは定着している。

⇒年齢層に関わらず、自転車を利用する理由として「健康」に着目する人が最も多い。

(5) 成果指標に関連する事項

- ⇒ ・実効性ある自転車分担率の向上施策が必要
- ・マイ自転車以外にも含む利用機会の充実が必要
- ・移動距離に応じて自転車を選択し得る環境構築が必要

◆自転車分担率

⇒自動車の分担率は全体の77%と非常に高い。

⇒19~74歳までは約半数が自転車未保有。

◆移動距離に応じて自転車を選択し得る環境構築

⇒自転車を利用しても良い限界距離は、3~5km程度が28%で最も多い。

3 自転車を巡る現状・課題及び国・県の動向等 . . . 別紙4参照

(1) 自転車を巡る現状及び課題（国の「自転車活用推進計画」より引用）

（都市環境）

- ・地球温暖化対策や渋滞対策を進める上で、短中距離の自家用車利用を、公共交通機関の利用との組み合わせを含めた自転車の利用へ転換することが重要
- ・自転車の利用促進を図るためには、自転車の利用環境を整えることが必要であるが、自転車対歩行者の事故への対応が課題となる
- ・コンパクトシティの形成等のまちづくりを進める上で、身近でアクセシビリティの高い交通手段である自転車の利用促進は、地域を支える移動手段確保の観点から重要

（健康増進）

- ・自転車は適正な運動強度を維持しやすく脂肪燃焼等に効果的であり、生活習慣病の予防が期待できるほか、年齢を重ねた時の歩ける身体づくりに資するものである
- ・子どもの体力・運動能力向上を図るうえで、手軽に運動できる自転車を活かし、身近でスポーツの楽しさや喜びを味わうことができる環境づくりを進めることが重要
- ・自転車による運動効果としてメンタルヘルスの改善も期待されており、健康経営の観点から自転車通勤が労働生産性の向上に寄与する可能性も秘める
- ・タンDEM自転車やハンドサイクル等を活用した障害者スポーツは、障害者の生きがいやQOLの向上、健康長寿社会や共生社会の構築にも貢献するものであり、その推進が求められている

（観光地域づくり）

- ・サイクリングツアーが外国人観光客から高く評価される等、訪日外国人旅行者のニーズが、「モノ消費」から体験型観光の「コト消費」へ変化しており、滞在コンテンツの充実が求められている
- ・自転車を活用した観光地域づくりは有望視されているが、サイクリストの走行ニーズが高い地域において、サイクリストの受入環境や走行環境が必ずしも十分整っていない等、サイクリング環境の整備が課題

（安全・安心）

- ・平成29年中の自転車乗用中の死者のうち、自転車側に法令違反が認められた割合は約8割と高水準である等、利用者の安全意識の醸成が課題
- ・自転車の安全利用を図るためには、交通ルールの周知と安全教育を推進することが重要
- ・自転車が有する機動性を活かすことにより、災害時における地域の安全・安心を向上させることが必要

(2) 国・県の動向

◇国による「自転車活用推進法」の成立（H29.5）及び「自転車活用推進計画」の策定（H30.6）

【新たな視点】

- ・自転車のIoT化の促進（IoTを活用した駐輪場やシェアサイクルの運営の効率化）
- ・サイクルツーリズムの推進（官民連携によるサイクリング環境の整備，広域的なサイクリングルートの整備）
- ・自転車の点検整備を促進するための広報啓発等の促進（定期的な点検整備の周知啓発）
- ・自転車通勤の促進
- ・災害時における自転車の活用の推進

◇道路構造令の一部改正（H31.4）

【新たな視点】

- ・自転車走行空間の整備形態 など
自転車^①を安全かつ円滑に通行させるため設けられる帯状の車道の部分として「自転車通行帯」に関する規定を新たに設けることにより、新たに整備する道路における「自転車通行帯」の設置の推進を図るもの

◇県道路交通法施行細則の一部改正（R元.12）

【新たな視点】

- ・タンデム自転車の公道走行が可能
サドルとペダルが2組ずつある2人乗りの自転車「タンデム自転車」は、健常者が前に乗ることで視覚障がい者の外出機会の増加にもつながる。

◇「栃木県自転車活用推進計画」の策定（R2.3）

【新たな視点】

- ・タンデム自転車の普及啓発
- ・サイクルツーリズムの推進（モデルルートの新出、サイクルステーションの整備、情報発信）

◇道路交通法の一部改正（R2.6）

【新たな視点】

- ・あおり運転の厳罰化
他の車の通行を妨害する危険な「あおり運転」について、最高で5年以下の懲役を科すなど罰則を強化。これまで法的に定義されていなかったあおり運転について「妨害運転」と規定し、幅寄せや急ブレーキ、執拗なクラクションなどで危険を生じさせると取締りの対象となる。自転車についても車と同じように厳しい罰則を科すことにしており、14歳以上であれば悪質な場合は刑事罰を受ける可能性がある。

◇新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」における自転車通勤・通学の一層の推進（R2.6）

国土交通省内の自転車活用推進本部の取組として、新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」において自転車の活用が推奨されていることを踏まえ、自転車通勤・通学の一層の推進を図ることとしている

- ・企業等への自転車通勤導入の促進
企業等が過度な負担なく、円滑かつ適切に自転車通勤制度を導入できるように、「自転車通勤導入に関する手引き」の活用や、チラシの配布、HPにおける情報発信等により、企業・団体等による自転車通勤制度の導入を促進
- ・「自転車通勤推進企業」宣言プロジェクト
自転車通勤を積極的に推進する事業者の取組を広く発信するとともに、企業活動における自転車通勤や業務利用を拡大するため、「自転車通勤推進企業」宣言プロジェクトを創設

4 上位計画・関連計画からみる目指すべき「自転車のまち宇都宮」の姿

目指すべきまちの姿(第6次総合計画/交通戦略)

- ・次世代の「人づくり」が充実し、誰もが生涯にわたって主体的に学ぶことができる【6次総】
- ・誰もが健やかで生きがいを持って自立した生活を送ることができる【6次総】
- ・日常生活において誰もが不安なく、安全・安心を実感して暮らせる【6次総】
- ・バリアフリー化された安全な歩行空間や自転車走行空間の整備【交通戦略】
- ・地域の確固たる経済力の維持・発展と環境に優しい都市の実現が両立【6次総】
- ・地域資源の魅力を創造・発信し、人や情報が行き交い活力が生まれる【6次総】
- ・公共交通と自転車等の乗換環境確保【6次総】
- ・多様なライフスタイルに対応した低コストで効率的な移動手段の確保【交通戦略】
- ・魅力ある都市空間の創造と骨格の強い交通ネットワークが構築【6次総】
- ・階層性のある公共交通ネットワークの構築【交通戦略】



目指すべき「自転車のまち宇都宮」の姿

- 通勤・通学・買い物やサイクリングに利用できる安全・安心・快適な自転車ネットワークが構築されている。
- 自転車利用者だけでなく、普段自転車を利用しない人にも自転車通行ルールが認知されている。
- プロスポーツ競技者など多様な担い手の参加により、幅広い世代が自転車の楽しさや交通ルールなどを学ぶ機会が充実している。
- 市民一人ひとりとはもとより、地域や事業者などにおいても健康への意識が高まり、自転車はそのツールとして定着している。
- 利便性の高いシェアサイクルが普及し、中心市街地や観光地の回遊、仕事での移動に利用されている。
- 多くの市民や来街者がサイクルスポーツを楽しんでおり、ジャパンカップコースやサイクリングロードを使った周遊観光が人気のコースとなっている。
- 短い距離はもちろんのこと距離のある場合でも LRT や路線バスなどの公共交通と組み合わせで通勤・通学や買い物に自転車が利用されている。
- 多くの市民や企業が自転車のまちの推進に参加している。
- 「自転車のまち宇都宮」が国内・国外に情報発信されている。

5 「自転車のまち宇都宮」の推進にあたっての取り組みの方向性及び検討の視点

施策の柱	取り組みの方向性
安全	<p>○自転車走行空間の整備推進と利便性の高い自転車ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車走行空間の整備を進めるとともに、市民の移動実態、公共交通との連携強化等を踏まえた自転車ネットワーク計画の見直しや効率的・効果的な整備手法の検討を進めていく。 <p>○交通安全教室の充実及び自転車保険加入促進・ヘルメット着用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車に関係する交通事故件数が増加傾向にあり、交通安全教室を継続的に開催するとともに、クルマの運転者に対する啓発活動の強化や自転車保険の加入促進、ヘルメットの着用促進に取り組んでいく。
快適	<p>○レンタサイクルの事業運営の見直しと利便性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レンタサイクルの効果的・効率的な事業運営やICTの導入やシェアサイクル化などの利便性の向上について検討する。 <p>○駐輪場の再整備・管理運営・利便性向上の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐輪場について、老朽化に伴う再整備の考え方や利便性・効率性向上のためのICT活用・管理運営のあり方などについて検討する。 <p>○駐輪スポット・自転車の駅の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリオン通りなどの駐輪環境の向上を図るため、地元商店街と協働で駐輪スポット設置について検討する。 ・自転車の駅について、サイクリングルート沿線への設置拡大とともに、周知・PRの強化を図っていく。
楽しく	<p>○ジャパンカップコースの活用及びジャパンカップを活かしたPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャパンカップコースの年間を通じた活用のための走行環境向上や安全性確保、ジャパンカップのブランド力を活かした広域的なPR活動を実施する。 <p>○宇都宮ブリッツェンと連携した自転車教室等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮ブリッツェンと連携した自転車教室・サイクルイベントの開催、幅広い市民に参加してもらえる教室内容の検討や参加しやすい環境づくりに取り組む。 <p>○宮サイクルステーションの機能拡充の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮サイクルステーションのレンタサイクルの更新や情報発信機能の充実、サイクリングツアーの開催など「自転車のまち宇都宮」の拠点施設としての機能拡充や施設規模等について検討する。
健康とエコ	<p>○自転車通勤・通学の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車通勤の促進について、引き続き企業・従業員等を対象とした出前講座を開催するとともに、雇用者側のメリットについてもアピールするなど、内容の充実を図る。 <p>○自転車を活用した健康増進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車通勤の促進と合わせた健康ポイント事業への加入促進を図るとともに、全ての市民を対象に健康増進のための自転車利用のPRを強化する。
つながる	<p>○自転車と公共交通との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利便性の高い公共交通ネットワークの構築に合わせて、鉄道やLRT、バスと連携した駐輪場整備を進めるとともに乗継の利便性向上を図る。 <p>○サイクルツーリズムの推進(モデルルート設定、走行環境整備、受入環境整備等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域的なサイクリングルートについて、国のモデルルートへの設定を目指し、県や周辺市町と連携を図りながら走行環境の整備や受け入れ環境の整備、ルート沿線の魅力づくり等について検討を進める。 ・鬼怒川や田川等のサイクリングロードの整備を進めるとともに、自転車ネットワークとの接続や広域サイクリングルートとの接続など、利便性の高い自転車ネットワークの構築について検討する。

検討の視点

- (1) 誰もが安全・安心・快適に自転車を利用できる環境づくり
- (2) 自転車を活用した魅力ある持続可能なまちづくり
- (3) 一人ひとりが健康で楽しく暮らせる自転車のまちづくり
- (4) 自転車を活用した過度にクルマに依存しないライフスタイルの推進
- (5) 「自転車のまち宇都宮」の市内外への積極的な情報発信
- (6) 官民の連携・協力による「自転車のまち宇都宮」の推進